千葉市教育研究会特別支援教育部会　（Ｃブロック言語・難聴）
ブロックテーマ「学級で生き生きと生活できる子どもの育成を目指して」

１　題材名　　「自分の強みを知り、自信をもって生きていく子に育つ対話」

２　言語障害通級指導教室について

(1)言語障害通級指導教室（以下、ことばの教室）

ことばの教室に通級している子どもは、通常の学級に在籍し、知的な遅れがなく、構音の誤りや言語発達の遅れ、吃音がある子どもである。個々の実態や課題に応じてことばに関する学習をしている。担当者は、子ども、学級担任、保護者と話し合いをしながら、豊かに生きるための学習をしている。

(2)吃音学習

吃音は、ことばをくり返したり、伸ばしたり、出てこなかったりする話し方の特徴がある。その話し方には波があり、どもったりどもらなかったりと変動する。その話し方だけではなく「どもるかもしれない」とどもる前から不安になって話すことをあきらめてしまうことがある。そのことから吃音の問題は、話し方だけではなく吃音から影響される行動や考え方、感情が問題となる。アメリカの言語病理者ジョセフ・G・シーアン博士が吃音を氷山に例えたことから、担当者も水面下へのアプローチを行う。吃音症状の原因や治療方法は、世界中で研究されるが未だ解明されていない。よって、私たちは、吃音症状の原因を探ったり、言語訓練のような治療法を行ったりすることはしない。水面下の吃音に影響される行動や考え方、感情への学習を行い、どもりながらも豊かに生きることができるという実感をもてるような学習や対話を工夫しながら行っている。

(3)吃音学習教材

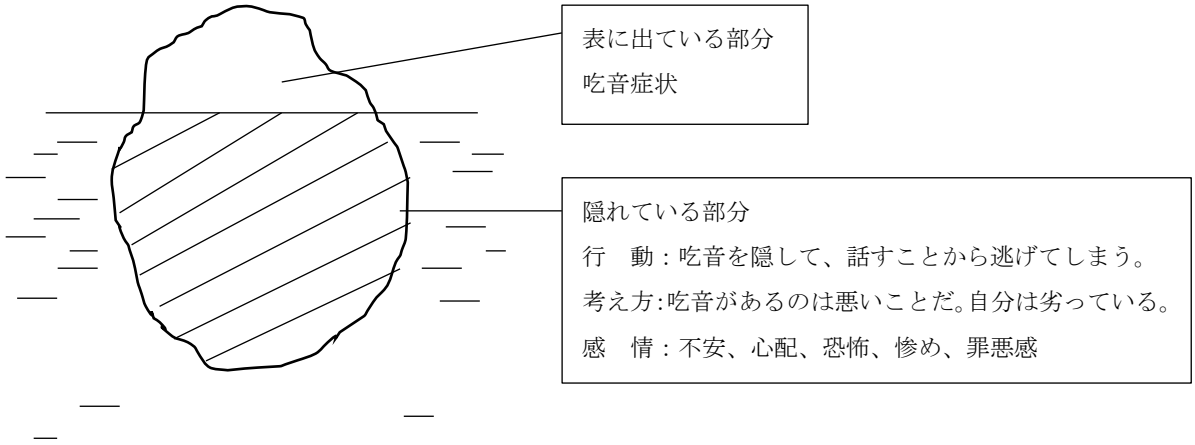
本題材では、以下の教材を活用する。

①実態把握（チェックリスト）

吃音について「対人関係」「行動」「吃音に対する気持ちや考え」に関する項目を子ども自身が自己チェックを行う。その中で吃音に影響されているものについて、対話をしたり対処方法を考えたりする。

②吃音氷山

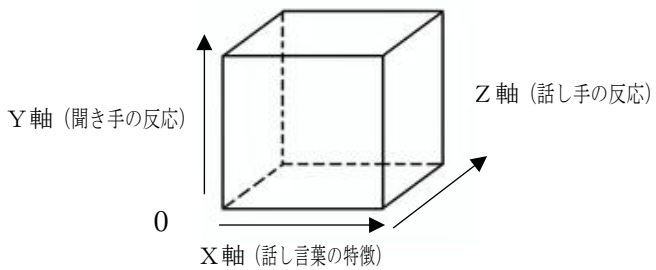
上記に説明した吃音氷山を子ども自身が描く。水面下の氷が小さくなれば吃音の問題も少なくなったと考える。子どもと氷の大きさの変容について対話をし、今後の対応について考えていく。



③言語関係図

アメリカの言語病理学者のウェンデル・ジョンソンが、吃音はどもる症状だけの問題ではないと解き、言語関係図を提案した。個々のＸ軸（話し言葉の特徴）Ｙ軸（聞き手の反応）Ｚ軸（話し手の反応）について、子どもたちと話し合う。

子どもが取り組みやすいように、私たちは積み木を使っている。子どもたちの考え方によって変えることができるＺ軸（話し手の反応）を短くする方法を考える。そのことによって、立体の大きさが変化することを確かめる学習をしている。



④吃音カルタ

子どもと対話をした内容をカルタとしてことばをまとめていく。子どもの気持ちや考えが表現されていくことが面白い。吃音について前向きなカルタだけでなく、ネガティブな考えのカルタもある。それは、吃音がある仲間とのグループ学習では、共感しながらユーモアとして受け止めることもある。

子どもが作ったカルタ「どもっても　気にしなければ　大丈夫。」これは、どもったときに周りの友達の反応を気にしなくなったら、気持ちが楽になったという思いが込められている。

思いや考えをことばに表現していくことは、客観的に自分の思いや考えを知り、自分自身と向き合うことに繋がる。また、思いを相手に伝えていくために必要な方法でもある。

3　対話について

ことばの教室は、個別学習であるため対話を行いやすい。特に吃音について、クラスの友達とは話すことが少ない。ことばの教室は、吃音について話す場である。子どもが吃音について考え、毎日苦戦をしたり、展望をもったりしていることを、担当者は対話の中から知ることができる。吃音学習をしていくと、吃音は悪いもの、治すものという考えが変化していく。どもっていても世界中で豊かに生きている事実を知ってほしいと担当者は吃音教材を通して対話をしていく。

「吃音を嫌がらず、この話し方に自分も慣れていくこと」これは、対話の中で子どもが担当者に話したことばである。今までどもることが恥ずかしく嫌だったと話していたが、吃音がある仲間とのグループ学習や、言語関係図、吃音カルタなどの学習に取り組みながら対話を重ねてくうちに、考えが変化してきた。また、将来の夢や自分の幸せについて話し合った。対話の中で「将来の夢は、飲食店の店長になりたい。そのために、今自分ができることは、将来に繋がる内容と自分の吃音のことを勉強することだと思う。また家族のために家の手伝いをしていきたいな。」と答えていた。吃音について「どもっても自分の料理の説明はしっかりと話したい。どもってもいいんだ。」と話していた。

このような考えやことばが子どもからでてくると、周りの人とのかかわり方も変わってくる。子どもたちが吃音に左右されずに、自分の人生を自分で豊かにできる大人になってほしいと思っている。ことばの教室は、今できることを考えて取り組み、将来をイメージして子どもと一緒に学習している。

4　まとめ

私たち担当者は、通級している子どもの課題について対話をし、一緒に考えていくことを基盤にしている。そして、自分の強みを知り自信をもって生きていく子に育ってほしいと願っている。子どもが将来を見つめ、どのように生きるかを対話する学習は、ことばの教室の強みだと思う。